

# デザイン学研究執筆要領

—執筆要領改正（5）

## Instructions for Contributors to the Bulletin of JSSD

—Revision of Guidelines for Writing (5)

● 論文花子

論文大学大学院  
RONBUN, Hanako  
Graduate School of  
Ronbun University

● 論文太郎

論文大学  
RONBUN, Taro  
Ronbun University

● 論説太郎

論説大学  
RONSETSU, Taro  
University of  
Ronsetsu

● 報告花子

報告大学  
HOKOKU, Hanako  
University of Hokoku

● Keywords : Design Theory, Graphics, Social Design, Service Design, Fashion Design

### 要旨

和文要旨と英文要旨に使用する書体はゴシック体で、その大きさはそれぞれ 8.5 ポイントと 9.5 ポイントとする。要旨は、「論文」「報告」「論説」のいずれに対しても、研究内容が的確に理解できるよう、平易な文で簡潔に記述する。英文要旨 [Summary] は十分な校閲を経た文章を記述する。なお、査読の段階で不備が指摘された場合は、ネイティブチェックを受けた要旨 [Summary] を提出する。要旨は、原稿の 1 枚目 (刷り上がり 1 頁目) 左段、16 行目から割り付ける。和文要旨の長さは、1 行 28 字×16 行 (448 字詰め) 以内とし、英文要旨 [Summary] は約 160 ワード以内とする。\*\*\*\*\*

### Summary

The font used for Japanese/English summary is made Gothic/Arial and its size is set to 8.5/9.5 points. The summary has to describe concisely using simple sentences in order to understand the research contents accurately to both of "original papers" "reviews" "research reports". Moreover, the English summary must describe sentences via an enough review. Furthermore, if incompleteness was pointed out at the stage of the peer review, the summary checked by native-English speaker is submitted. The summary is laid out 1st page of a manuscript from 16 line in the left column. The length of the Japanese/English summary is made within 1 line (28 letters) x 16 lines/160 words. \*\*\*\*\*

### 1. はじめに

この原稿フォーマットは、原稿体裁を整えて投稿することができるように、定められた形式で作成されている。原稿は、表題、著者名、所属、要旨、図、表、および注などを含め、刷り上がりを [ 2, 4, 6, 8, 10 頁] のいずれかとする。刷り上がりは、最大 10 頁を越えてはならない。

### 2. 原稿フォーマットの使用方法

#### 2. 1. フォーマットの使用

このフォーマットの表題、著者名、所属、および本文などはあらかじめ本学会指定の書式が設定されている。この書式を用いることで、文字数、行数など定められた体裁で論文を作成することができる。

#### 2. 2. 本文の構成

本文は、原稿の 1 枚目 (刷り上がり 1 頁目) 右段、16 行目から割り付ける。右段は、28 字×36 行 (1008 字詰め) とする。原稿の 2 枚目以降は、上から 7 行目までを空欄とし、8 行目から二段組みで割り付ける。割り付けは、一段を 28 字×44 行 (1232 字詰め) とし、二段組みとする (2464 字詰め)。文章は、当用漢字、現代かなづかい、ひらがなまじりを原則とする。

(1) 原則として、例えば、[緒言・序・はじめに、実験方法・調査方法、実験結果・調査結果、考察、要約・結語・結論・おわりに、謝辞、注] などの区分を設けて記述する。

(2) 原稿には、大見出し・章、中見出し・節、小見出し・項などを設け、それらを明瞭に区分する。大見出し・章が変わる時には、1 行あけて、新しい大見出し・章に入る。

なお、中見出し・節、小見出し・項が変わっても、1 行あけない。大見出し・章、中見出し・節、小見出し・項などに使用する書体は [ゴシック体 : 8.5 ポイント] とする。

### 3. 図および写真・表の割付について

#### 3. 1. 図および写真の割付

写真は図として扱う。また、図 1 に示すように、図題は図の下に中央合わせて配置する。

#### 3. 2. 表の割付

表 1 に示すように、表題は表の上に中央合わせて配置する。



図1 日本デザイン学会のロゴ

また、1つの表が複数ページに跨らないようにレイアウトする。

### 3. 3. 図・表の割付に関する注意点

(1) 図・表は、2枚目以降の上から7行目までの空欄に配置することができる。

(2) 本文と、図・表の間は1行以上の空白を設けて、見やすさに配慮する。

(3) 図および表の横に空白ができて、その空白部には本文は記入しない。

(4) 図および表は、余白部分をはみ出さないようにレイアウトする。

(5) 図・表中の文字は、ゴシック体を使用し、8ポイント程度で記述されることが望ましい。

### 4. 式の書き方について

式を記述する際は、Times New Roman を使用し、2文字分の空白を行頭に設ける。また、式番号は、式と同じ行に右寄せして( )の中に書く。本文で式を引用する際は、式(1)のように記述する。

$$S = \sqrt{\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2} \quad (1)$$

見やすさを考慮し、本文と式、式相互間は一行以上空ける。

### 5. 注および参考文献の書き方について

注、引用、および参考文献は[注○] (○は通し番号) と記す。参考文献の書き方は以下の通りである。

(1) 和文書籍[注1]と英文書籍[注2]の場合は、著者：書名、発行所、頁、発行年の順に記す。

(2) 翻訳書の場合は、原著(訳者)：書名、発行所、頁、発行年の順に記す[注3]。

(3) 原著論文(和文・英文)の場合は、著者：表題、雑誌名、巻(号)、頁、年の順に記す。著者の人数が1名の場合[注4, 5]、2名の場合[注6, 7]、および3名以上の場合[注8, 9]で書き方が異なる。なお、著者が3名以上の場合、1名もし

くは2名の著者名を記載し、その他は「他」(英文の場合には et al.) と記す。

(4) 国際会議論文の場合は、著者、表題、講演論文集名、年、頁やIDの順に記す[注10, 11]。

(5) Web サイトの場合は、発信元：サイト名称、URL(参照日の順に記す[注12])。

(6) DOI が割り当てられている論文の場合は、例[注13]のように記す。

### 注および参考文献

- 1) 岩井正二, 青木弘行: *工業デザインのための材料知識*, 日刊工業新聞社, 160-197, 2008
- 2) Matsuoka, Y. (Eds.): *Design Science*, Maruzen, 30-39, 2010
- 3) クラウス・フリッペンドルフ(小林昭世訳, 他): *意味論的転回—デザインの新しい基礎理論*, エスアイビーアクセス, 311-336, 2009
- 4) 佐藤弘喜: 視覚認知構造に基づくデザイン評価研究, 感性工学, 8(3), 437-444, 2009
- 5) Matsuoka, Y., Design of Automotive Passenger's Seat, *The Science of Design*, 48(2), 17-24, 2001
- 6) 大友邦子, 山中敏正: パターンデザインにおける原画作成方法と印象評価の関係性, 感性工学, 14(1), 249-255, 2015
- 7) Alvarez, J. and Kobayashi, A., A Socio-cultural approach of mobility design for the local community, *The Science of Design*, 56(1), 73-82, 2009
- 8) 田村良一, 他: デザインプロジェクトの戦略的な遂行方法の提案, *デザイン学研究*, 62(6), 95-104, 2016
- 9) Kato, T., Horiuchi, S., et al., Quality Function Deployment Based on the Multispace Design Model, *The Science of Design*, 60(1), 77-86, 2013
- 10) Matsuoka, Y., Multispace Design Model Towards Integration between Industrial Design and Engineering Design. *Proceedings of Design Research Society 2012 (2012)*
- 11) Sato, K. and Matsuoka, Y., Self-organizing System for Deriving Diverse Solutions Based on Concept of Emergence. *Proceedings of IEEE International Conference on Computational Intelligence and Cybernetics 2012 (2012)*, 11-15
- 12) 内閣府: 国民生活に関する世論調査, <http://survey.gov-online.go.jp/h26/h26-life/zh/z35.html> (参照日 2016年10月19日)
- 13) 森下 あおい, 中村 顕輔: シニア・ファッションに向けたデザイン画の基準体形像, *デザイン学研究*, 65(3), 43-48, 2018, DOI:[https://doi.org/10.11247/jssdj.65.3\\_43](https://doi.org/10.11247/jssdj.65.3_43)

表1 サンプルの表

サンプル番号	サンプルの特徴
1	特徴1
2	特徴2
3	特徴3
4	特徴4
5	特徴5